

地域の公共施設のこれからを考えるワークショップ (木崎地域)

第3回ワークショップの結果概要

令和2年12月5日(土) 木崎コミュニティセンター

1 対策案について

1) 対策案の追加・修正

【 A'・B' 案共通 】

- 横井の丘ふるさと資料館は倒壊の恐れがあるという診断結果が出ているので、隣接する木崎保育園の園児や保護者の安全性を考えると、速やかに解体した方がよい。人命に関わることなので後回しにならない様に、「速やかに機能を移転して施設を廃止し、早急に解体する」と明記してほしい。
- いずれの案でも一時的な避難場所としての機能は確保してほしい。地域貢献しているというイメージアップにつながると思うので、避難所機能を維持することが企業にとってデメリットになるとは限らないのではないかと。
- A' 案にて複合施設の経営知識をもつ企業を誘致し、その企業のもとで B' 案の多目的活用を実現するといった両案の良いところを取り入れた案は考えられないか。

【 A' 案 】

- 導入を検討する機能として挙げられている「産業振興施設」として、工場などの第二次産業だけではなく、スーパー等の小売店など第三次産業も考えられるのではないかと。生活に密着したサービスを提供する企業であれば、地域住民のための施設にもなるのではないかと。

【 B' 案 】

- 旧笹山小学校は面積が広く、1社で運営するには事業規模が大きく、参入企業が出てこない可能性があると思う。施設を分割するなど、複数の企業が入れる形にすれば参入しやすいのではないかと。複数の企業や団体が入る場合、調整が必要になるので、不動産やビル管理などの知識をもつ企業が関わってくるとよい。
- 施設全体を民間活力ベースで考えるのは難しいと思うので、スポーツ拠点として最低限体育館とグラウンドについては地域住民が利用できるようにしてほしい。
- 旧笹山小学校の周辺には飲食店やカフェなどが少ないので、給食室を利用し、地元の食材を使った食堂などが導入できるとよい。
- 旧笹山小学校の周辺にはないデイケア（通所リハビリテーション）など高齢者が利用できる施設や、子どもたちが遊べる施設ができるとよい。

2) 検討着手の順序

【 A´・B´案共通 】

- いずれの案も実現が難しいと感じているので、地域の意向を反映させて進めるのであればどちらの案でもよい。
- 伝統や思い出のある旧笹山小学校が、このまま長期間活用されず荒れていく姿は見たくない。どちらの案でもよいので早く着手できる方から進めてほしい。

【 A´案 】

- 誘致する企業さえ決まれば A´案の方がスムーズに進められるのではないかと。参入意向のある企業が既にあるという話も聞くので、B´案よりも実現性が高いのではないかと。
- コロナ禍の中、東京などの大都市でなければ仕事ができない、事業が大きくなれないという今までの認識が変わってきているので、長い目で見れば東京や大都市の企業も参入してくれるのではないかと。

【 B´案 】

- 導入機能案から、そこでの活動を具体的にイメージできるし、多世代が利用できる地域のための施設になると思う。地域の意向が反映される余地もあると思うので、事業に対する住民の理解が得やすく、検討が円滑に進むのではないかと。
- 小学校は地域の歴史や伝統を物語る象徴的な施設であり、住民の思い入れも深いと思う。B´案であればこれからも住民が関わりを持てる施設になり、木崎中学校の生徒が運営などに参加できれば、地域に愛着を持つ機会にもなるのではないかと。
- 木崎地域には子どもの遊び場が少ないので、年代別で安心、安全に過ごせる場ができるとよい。地域に子どもが増えるきっかけになり、他地域からも遊びに来るようになれば、地域の活性化にもつながると思う。
- これだけ大きな施設を維持管理する財源力をもつ企業があるのか疑問に思う。結局、行政からの財政的・人的支援が必要になるのであれば、行政負担を減らすという目的が達成できなくなるのではないかと。

3) 配慮すべき事項（付帯事項）

【 A´・B´案共通 】

- 旧笹山小学校の体育館を、災害時には避難所として利用できるスペースとして残せるとよい。緊急避難所ではなく避難所として利用することができないか。交通面や安全面を考えると、笹山公民館や浦ノ入公民館は旧笹山小学校の代わりにはならないと思う。
- 各案の配慮事項に「一時的な避難場所としての機能確保を条件として」と記載してあるように、緊急避難場所として利用できればよい。
- 旧笹山小学校は幹線道路からの入口が狭く、周辺道路の道幅も狭いので、拡幅して安全性と利便性を確保できるとよい。
- いずれの案でも駐車場が足りなくなると思うので、プールやグラウンドの一部を利用して駐車台数を増やせるとよい。
- 旧笹山小学校の電気や水道などのライフラインを復旧させ、管理者を置いて、民間活用に移行するまでの間も地域住民が利用できるようにできないか。
- 旧笹山小学校の利活用の方向性が決まるまでには数年はかかると思う。その間の樹木や雑草などの管理を市が責任をもって行ってほしい。既に荒れた状態になっており魅力的な施設に見えないので、公募時の弊害になるのではないか。

【 A´案 】

- A´案で立地条件を活かした企業誘致をするのであれば、笹山小学校周辺の道路環境の整備をする必要があるのではないか。道路整備によって立地的な価値が更に上がり、参入する企業が増えると思う。

【 B´案 】

- B´案で想定している利用用途は北区文化会館と重複する。現在、北区文化会館の利用率が低いようであれば、同じ利用用途となる新しい施設の利用率を高めるための工夫が必要になるのではないか。

2 地域別実行計画の策定および策定後の進め方について

- 笹山小学校跡地が長期間放置されるのは避けたいので、A´案とB´案を一斉にサウンディング調査にかけて参入企業があった案から着手するなど、速やかに検討が進む方法をとれるとよい。
- 他自治体等の事例を参考にして市の判断で進めてもらえればよいが、着実に進めるためには期限を決めておく必要があるのではないか。

- 企業により導入できる機能が変わると思うので、決定する前に参入意向のある企業の情報を住民と共有し、意見を聞く機会を設け、より具体的な議論を行うことで、企業と住民との理解を進めることができ、参入後の円滑な関係に繋げることができるのではないか。
- 現状有姿での売却は避けたいので、そうならない様に検討を進めてほしい。もし民間の参入意向がなかった場合には、改めて市の施設としての利活用を検討できないか。住民側としても、NPOを立ち上げるなど地域で運営する体制を考える必要はあると思う。
- スーパーの新規出店に3~5年の準備期間が必要だと聞くので、そのくらいの期間をかけて案の具体化を検討してほしい。それでも難しければ、現状有姿での売却もやむを得ないと思う。
- コロナの影響があって企業の事業見通しが立たないと思うので、状況が落ち着くのを待った方がよい。2~3年の時間の余裕を持って方向性を考えられるとよい。
- コロナ禍で東京一極集中の是正が話題にあがっているので、市内、県内だけでなく、関東圏の企業も対象にした魅力的なPRができるとよい。
- 旧笹山小学校は市街化調整区域内にあるため利用が制限されるが、企業の利用を促すために市街化区域にできるとよい。それが難しい場合は、市が公募を行う際に想定している用途を具体的に示せば、参入の検討がしやすくなるのではないか。

3 その他

- 地域内には廃止されてそのままになっている旧公共施設が複数あり美観を損ねているので、それらについても実行計画を速やかに検討する必要があるのではないか。
- 旧笹山小学校の体育館をスポーツで使いたいという要望やまず地域全体の避難所の方針を検討してはという提案など、住民の意見を受け入れる姿勢が見られない。ワークショップが話し合いの場ではなく、市が決めた方向で進めるための説明の場になっていると思う。笹山公民館が避難所になった際も、市が一方向的に決めた印象があった。
- 笹山地域の住民の意向を反映して笹山公民館が避難所に指定されたのであれば、他地域の住民が口を出すことではないと思う。
- 災害時の避難所は現状で足りているという説明が聞いて安心した。
- 文科省等の補助金を使って笹山小学校を建設している場合、建物の用途が変わったら補助金の返金が必要になるのではないか。
- 笹山小学校跡地内にある木崎小学校へのバス待合室の除雪を保護者が行っているが、市が除雪することはできないか。